

高梁市備蓄計画

令和5年2月

高 梁 市

目 次

1 はじめに	1
2 備蓄計画策定に係る考え方	2
(1) 備蓄物資支給対象者	3
(2) 備蓄品目	3
(3) 備蓄目標	4
3 整備（購入）計画	9
(1) 食料及び水	9
(2) 生活必需品	9
(3) 資機材等	9
4 備蓄倉庫について	10
(1) 集中備蓄倉庫	10
(2) 分散備蓄倉庫	11
(3) 集中備蓄倉庫と分散備蓄倉庫における備蓄目標	12
5 家庭内備蓄について	19
6 企業内備蓄について	20
7 流通備蓄について	21
8 救援物資について	22
資料 備蓄物資の現状	24

1 はじめに

岡山県及び県内市町村においては、平成19年2月、県・市町村防災対策研究協議会が備蓄品目・数量、役割分担について取りまとめた「緊急物資等の備蓄・調達に関する報告書」に基づき備蓄が推進され、平成26年7月には「岡山県及び県内各市町村の災害時相互応援協定」が締結され、岡山県災害時相互応援連絡協議会（以下「協議会」という。）が設置されました。

平成27年3月、国が「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（以下「具体計画」という。）を策定したことを受け、協議会において上記報告書の枠組みを踏襲し、南海トラフ地震の被害想定を基に算出した備蓄数量等を「緊急物資等の備蓄・調達（南海トラフ想定地震）について」（以下「県備蓄計画」という。）として取りまとめました。

その後、平成29年6月に具体計画が改正され、プッシュ型支援による物資調達の対象品目が8品目となったことから、県備蓄計画内の備蓄品目もそれに合わせて見直されました。また、令和元年5月に防災基本計画が見直され、液体ミルクが同計画の対象とされたことから、県備蓄計画もそれに合わせて見直されました。さらに、令和2年5月に具体計画が改定され、必要量の算出式に避難所外避難者数が算入されたことから、県備蓄計画内の目標備蓄量もそれに合わせて見直されるとともに、新型コロナウイルス感染症を踏まえた感染予防のため、備蓄品に感染症対策資機材が追加されました。

本市における平成30年7月豪雨災害は、土石流や河川の氾濫などにより住家被害が624件発生するなど、市民生活や経済活動に甚大な影響を及ぼし、避難所への避難者は2,800人（当時の人口30,952人の9％）に達し、一部では1か月を超える避難所生活を余儀なくされました。また、発災直後は道路の被災により避難所への物資輸送ができない状況も生じました。

こうしたことから、国・県の動向や平成30年7月豪雨災害などから得られた課題・教訓を踏まえ、さらなる備蓄体制の強化を図ることを目的として、本計画を策定するものです。

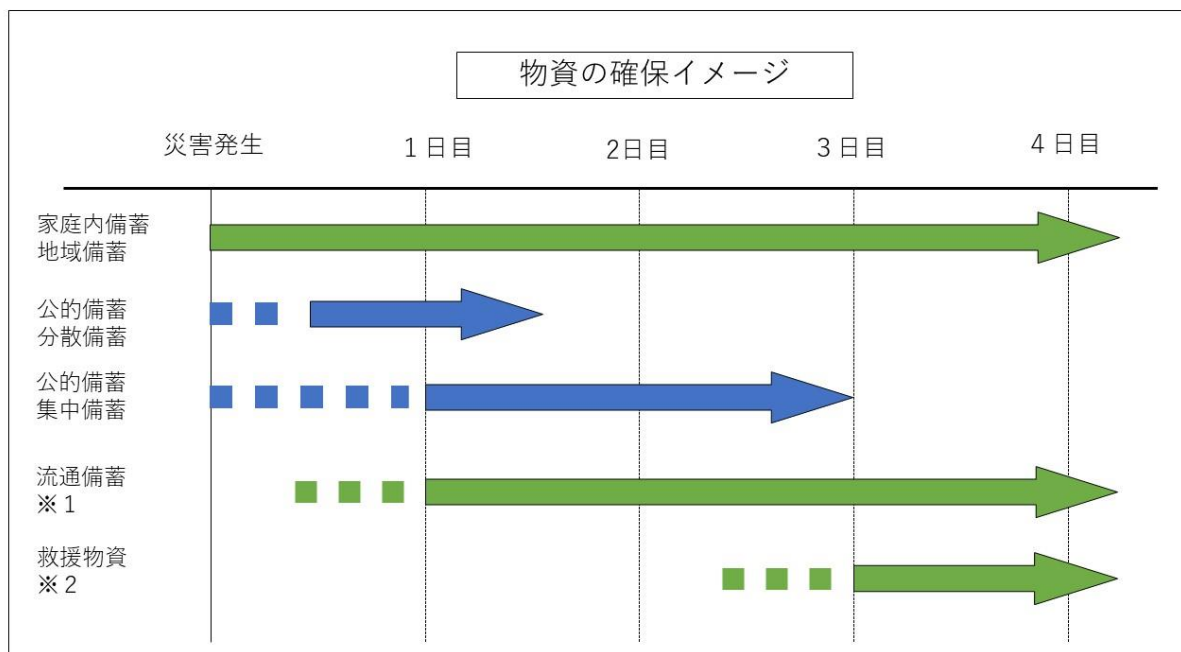
2 備蓄計画策定に係る考え方

備蓄計画においては、自助・共助・公助を基本とし、市民による日頃からの家庭内備蓄、流通業界等からの流通備蓄^{※1}、他都市からの救援物資^{※2}等を考慮しつつ、発災当初の応急対策として、本市では発災直後に必要となる食料、水、生活必需品などを備蓄（公的備蓄）することとし、市民、地域、企業、行政が一体となり災害に対処することを目標とします。

発災後には本市と協定などを結んでいる民間事業者からの物資の供給（流通備蓄）、他都市からの支援物資の供給（救援物資）、国や岡山県からのプッシュ型支援が見込まれますが、大規模災害の発生直後は、交通・通信インフラの寸断などにより流通機能が停止し、被災地外からの支援物資が届かないことが予想されます。このため、平時から災害に備え各家庭などにおける備蓄（家庭内備蓄）及び自主防災組織等での地域での備蓄（地域備蓄）を推奨することとし、「最低3日間、推奨1週間」分の食料、水や生活必需品、携帯トイレ等を備蓄するよう周知啓発に努めています。

また、災害時は家屋の倒壊、焼失または浸水などによる避難者が多数発生すると予想されるため、本計画では、発災から概ね6時間後から3日間までを想定して備蓄計画を策定します。

なお、本計画は、5年ごとを目途に検討を加えるとともに、被害想定の見直しや新たな課題が生じたときなど、時勢の変化にあわせて必要に応じて見直しを行うものとしします。



※1 流通備蓄：市が流通業界等の企業と協定を締結し、災害時に調達する物資をいう。

※2 救援物資：市が他都市と協定を締結し、災害時に調達する物資をいう。

(1) 備蓄物資支給対象者

県備蓄計画は南海トラフ地震を想定されていますが、平成25年7月に作成された「岡山県地震・津波被害想定調査報告書」では、本市における避難者数は避難所外避難を含め28人と比較的少数であるため、全市域に避難指示が発令された平成30年7月豪雨災害での避難者数2,800人（人口割合9%）を基に支給対象者を算出します。

名 称	平成30年7月豪雨	南海トラフ大規模地震（想定）
避難者数	最多 2,800人	1日目 28人（避難所外避難者含む）
建物被害	床上浸水以上 372棟	半壊以上 52棟

(2) 備蓄品目

公的備蓄は自助、共助による物資確保を補完するものであるという考えのもと、県備蓄計画に示されている本市の備蓄品目の備蓄を推進するとともに、令和4年度「高梁市防災に関わるアンケート」結果など本市の実情等を考慮し追加することとします。

① 食料及び水

食料については食物アレルギー等の方に考慮し、アレルギー特定原材料等28品目を含まないものをそれぞれ10%以上備蓄します。

品 目	備 考
アルファ化米 クラッカー	想定される避難者のうち、3歳以上の方に、1日3食、3日分のアルファ化米、クラッカーを備蓄します。
アルファ化米（おかゆ）	想定される避難者のうち、1歳から2歳までの幼児や後期高齢者（75歳）の方に、1日3食、3日分のアルファ化米（おかゆ）を備蓄します。
ベビーフード	7ヶ月から1歳8ヶ月の乳幼児に対応するベビーフードを備蓄します。
液体ミルク 粉ミルク	想定される避難者のうち、乳幼児（0歳）の方には、液体ミルクを1日140g必要として、3日分の液体ミルクを備蓄します。 なお、粉ミルクについては、アレルギー対応粉ミルクを備蓄します。
水	想定される避難者の全員に、500ml入りの水を6本備蓄します。 なお、市の給水車や協定自治体等からの支援給水車による給水が行われることを考慮します。

② 生活必需品

生活必需品については次の品目とし、3日分を備蓄することとします。

品 目		
紙コップ（哺乳瓶代用品）	紙おむつ（子供用）	おしりふき（子供用）
紙おむつ（大人用）	生理用品	毛布・アルミシート
タオルケット	トイレトペーパー	ウェットティッシュ
マスク	消毒用アルコール	

③ 資機材等

資機材等については、次の品目とします。

品 目		
簡易トイレ	簡易トイレ用排便収納袋	懐中電灯
カセットコンロ	カセットガス	簡易ベッド
簡易間仕切り	ブルーシート	投光器
発電機	発電機用カセットガス	蓄電池

(3) 備蓄目標

備蓄物資支給対象者数は、平成30年7月豪雨での避難者数の人口割合9%を令和4年3月末の人口28,022人に乗じて得た2,550人として、支給する食料及び水、生活必需品の備蓄目標を年代や性別を考慮して算定します。

算定に当たっては、災害の種類や規模等によって異なりますが、道路の寸断等によって物流・流通機能等が停止することを考慮し、3日間の物資の備蓄を目標とします。

また、市民の備蓄率を「令和4年度県民満足度等調査（防災対策編）：岡山県」の結果による3日間平均38%とし、2,550人に62%（100% - 38%）を乗じた1,600人分として算出します。

食料・水に関しては避難所外避難者（在宅避難者等）の需要に備えるために、備蓄物資支給対象者数に1.2を乗じた1,920人分として算出します。

あわせて、平成26年7月に締結された「岡山県及び県内各市町村の災害時相互応援協定」に基づき、令和5年1月に策定された県備蓄計画も考慮するものとし、算定により県備蓄計画の本市の目標備蓄量を下回る場合は、県備蓄計画の目標備蓄数量とします。

人口における各区分の割合

区分	割合	備考
2歳から74歳までの方	75%	アルファ化米、クラッカー
1歳、及び後期高齢者（75歳以上）の方	25%	アルファ化米（おかゆ）
乳幼児0歳～2歳	0.8%	ベビーフード
乳幼児0歳の方	0.4%	粉ミルク、紙コップ
3歳までの方	1.2%	紙おむつ（子供用）
要介護度3以上の方（在宅）	2.4%	紙おむつ（大人用）
12歳から51歳までの女性の方	16.2%	生理用品

（令和4年3月末現在 男女別・年齢別 住民基本台帳人口、要介護（要支援）認定に基づき算定）

① 食料及び水

品目	算出根拠	対象
	備蓄目標	
アルファ化米 クラッカー	1日3食の3日分として、1人当たり9食分を備蓄 1,920人×75%×9食 = 12,960食 県備蓄計画 20,200食×75% = 15,150食	3歳から74歳
アルファ化米 (おかゆ)	1日3食の3日分として、1人当たり9食分を備蓄 1,920人×25%×9食 = 4,320食 県備蓄計画 20,200食×25% = 5,050食	1歳 後期高齢者(75歳以上)
ベビーフード	1日3食の3日分として、1人当たり9食分を備蓄 1,920人×0.8%×9食 ≒ 139食 7ヶ月から 139食×2/24 ¹ ヶ月 ≒ 12食 9ヶ月から 139食×3/24 ¹ ヶ月 ≒ 18食 12ヶ月から 139食×4/24 ¹ ヶ月 ≒ 24食 1歳4ヶ月から1歳8ヶ月 139食×5/24ヶ月 ≒ 29食	7ヶ月から1歳8ヶ月 (月齢別) ※割合については乳 幼児0歳～2歳を参 照
液体ミルク 粉ミルク	1日140g、3日分として液体ミルクを備蓄 粉ミルクについては、アレルギー対応ミルクを備蓄 液体ミルクは、調製粉乳140g当たり1ℓで換算する。 1,920人×0.4%×140g×3日 ≒ 3.3kg 県備蓄計画 7kg ① 液体ミルク 7kg-1.6kg(粉ミルク備蓄量) = 5.4kg 5,400g / 140g ≒ 39ℓ 39,000ml / 240ml ≒ 170本 ② 粉ミルク(アレルギー対応) 7kg×10% = 700g < 800g(1缶)	乳幼児0歳
水	1日分として1人500mlを6本備蓄 1人当たり1日3ℓが目安のため、市の給水車や協定自治 体等からの支援給水車による給水が行われることを考慮 します。 1,920人×6本 ≒ 12,000本	想定される避難者の 全員

¹ 乳幼児0歳から2歳までの対象者の割合

② 生活必需品

品目	算出根拠	対象
	備蓄目標	
紙コップ (哺乳瓶代用品)	哺乳瓶の代替品として、1人当たり1日6個として、3日分を備蓄 $1,600人 \times 0.4\% \times 6個 \times 3日 \div \boxed{120個}$	乳幼児0歳
紙おむつ (子供用)	1人当たり1日8枚として、3日分を備蓄 $1,600人 \times 1.2\% \times 8枚 \times 3日 \div \boxed{460枚}$ Sサイズ $460枚 \times 9/72^2 \div \boxed{58枚}$ Mサイズ $460枚 \times 27/72^2 \div \boxed{173枚}$ Lサイズ $460枚 \times 33/72^2 \div \boxed{211枚}$ ビッグサイズ $460枚 \times 3/72^2 \div \boxed{20枚}$	3歳までの方
おしりふき (子供用)	1人当たり1袋(64枚入り)備蓄 $1,600人 \times 1.2\% \div \boxed{20袋}$	3歳までの方
紙おむつ (大人用)	1人当たり1日6枚として、3日分を備蓄 $1,600人 \times 2.4\% \times 6枚 \times 3日 \div \boxed{692枚}$	要介護度3以上
生理用品	1人当たり3日分として、10枚を備蓄 生理周期を4週に1週として算定 $1,600人 \times 16.2\% \times 10枚 \times 1/4 = \boxed{648枚}$	12歳から51歳の女性
毛布 アルミシート	1人当たり1枚として備蓄 毛布：アルミシートを9：1の割合で備蓄 毛布 $2,550人 \times 90\% = \boxed{2,295枚}$ アルミシート $2,550人 \times 10\% = \boxed{255枚}$	全員（アルミシートはハウスタストアレルギー対応）
タオルケット	1人当たり1枚として備蓄 $2,550人 \times 1枚 = \boxed{2,550枚}$	全員
トイレットペーパー	3日分を備蓄 $(2,550人 - 30人^3) \div (60m[1個] \div 5m[1人5回使用量]) \times 3日 = 630巻$ 県備蓄計画 $\boxed{340巻}$ を備蓄目標とし、残り290巻は市役所、地域局、市民センター等の市有施設保有分を使用します。	紙おむつ使用者（子供用）を除く全員

² 平成22年乳幼児身体発育調査報告書（厚生労働省）参照

³ 紙おむつ（子供用）使用者：30人（2,550人×1.2%）

品目	算出根拠	対象
	備蓄目標	
ウェットティッシュ	1人当たり1袋として備蓄	全員
	1,600人×1袋 = 1,600袋	
マスク	1人当たり1日1枚として、3日分を備蓄	全員
	1,600人×3枚 = 4,800枚	
	県備蓄計画 14,300枚	
消毒用アルコール	1回の使用量を3mlとし、1人1日5回使用すると想定し、3日分を備蓄	全員
	2,550人×3ml×5回×3日 ÷ 115ℓ	

③ 資機材等

品目	算出根拠
	備蓄目標
簡易トイレ	紙おむつ使用者を除く利用者50人当たり1基として備蓄
	$(2,550人 - 30人^3) \div 50人 \div 51基$
簡易トイレ用排便 収納袋	紙おむつ使用者を除く利用者、1人当たり1日5枚として、3日分を備蓄
	$(2,550人 - 30人^3) \times 5枚 \times 3日 \div 37,800枚$
懐中電灯	各箇所2個として備蓄
	$2個 \times 18箇所^4 + 予備4個 = 40個$
カセットコンロ	各箇所2台として備蓄
	$2台 \times 18箇所^4 + 予備4台 = 40台$
カセットガス	カセットコンロ、1台当たり3本を備蓄
	$40台 \times 3本 = 120本$
簡易ベッド	各箇所20台として備蓄
	$20台 \times 18箇所^4 + 予備640台 = 1,000台$
簡易間仕切り	各箇所20個として備蓄
	$20個 \times 18箇所^4 + 予備390個 = 750個$

³ 紙おむつ（子供用）使用者：30人（2,550人×1.2%）

⁴ 資機材等配備箇所：18箇所（最初の避難場所開設候補となる施設）

品目	算出根拠
	備蓄目標
ブルーシート	各箇所5枚として備蓄
	5枚×18箇所 ⁴ +予備10枚 = 100枚
投光器	各箇所1台として備蓄
	1台×18箇所 ⁴ +予備2台 = 20台
発電機	各箇所1台として備蓄
	1台×18箇所 ⁴ +予備2台 = 20台
発電機用カセット ガス	発電機、1台あたり12本を備蓄
	20台×12本 = 240本
蓄電池	各箇所1台として備蓄
	1個×18箇所 ⁴ +予備2個 = 20個

⁴ 資機材等配備箇所：18箇所（最初の避難場所開設候補となる施設）

3 整備（購入）計画

整備（購入）計画を次のとおり定めます。

（１）食料及び水

① アルファ化米及びクラッカー

7年程度の保存期間があるものを計画的に購入します。

② ベビーフード

1年半程度の保存期間があるものを計画的に購入します。

③ 液体ミルク

2年程度の保存期間があるものを計画的に購入します。

④ 水（500ml入り）

10年程度の保存期間があるものを計画的に購入します。

なお、保存期間が残り1年未満となった食料及び水については、本市の総合防災訓練時に配布するとともに、要望に応じて自主防災組織等の訓練や出前講座の際に配布します。

さらに、市の様々なイベントで活用することによって、市民の防災意識の高揚を図ります。

また、防災教育の一環として、小・中学校・こども園等への配布を検討します。

（２）生活必需品

① 紙コップ（哺乳瓶代用品）・紙おむつ・生理用品・タオルケット・マスク・ウエットティッシュ

保存状況や衛生面を考慮しながら計画的に購入します。

② 毛布・アルミシート

長期保存が可能な真空パック入りの毛布・アルミシートを計画的に購入します。

③ トイレtpペーパー・消毒用アルコール

市役所本庁舎使用分と1年に1度交換し、ローリングストックを行います。

なお、備蓄物資として適さなくなった生活必需品については、可能な限り再利用するものとします。

（３）資機材等

① 簡易トイレ・簡易トイレ用排便収納袋・懐中電灯・カセットコンロ・カセットガス・簡易ベッド・簡易間仕切り・ブルーシート・投光器・発電機・発電機用カセットガス・蓄電池

保存状況や衛生面を考慮しながら計画的に購入します。

4 備蓄倉庫について

本市では、東日本大震災や平成30年7月豪雨災害等の教訓を活かし、備蓄物資をより効率的に運搬・支給できるようにするために、集中備蓄倉庫に加えて、各地域局、各市民センター等への分散配備を行い、避難場所となる施設にも分散配備を行います。

さらに、今後、備蓄品目、保管場所、その管理方法等を関係機関と調整・協議し、検討することとします。

(1) 集中備蓄倉庫

各地域への備蓄物資を補完・補充するとともに、避難者が多い避難場所へ直接、備蓄物資を運搬・支給するため、集中的に備蓄物資を配備します。

● 集中備蓄倉庫一覧

備蓄倉庫名	所在地
高梁市役所備蓄倉庫	高梁市松原通2043
高梁市役所分庁舎跡備蓄倉庫	高梁市松原通 2117-1
成羽体育館備蓄倉庫	高梁市成羽町成羽 2251-1

(2) 分散備蓄倉庫

災害時において、速やかに備蓄物資の運搬・支給ができるよう、各地域へ備蓄物資を配備します。

地域の備蓄は各地域局、各市民センターとし、倉庫の確保が難しい場合は周辺施設も含めて検討し、避難場所開設時に最初の開設候補となる施設へも配備を進めます。

● 分散備蓄倉庫一覧（令和4年3月末現在）

地域	備蓄場所名	所在地	最初の開設候補となる避難場所
高梁	高梁市文化交流館	高梁市原田北町1203-1	○
	高梁中学校	高梁市落合町近似1260-1	○
有漢	有漢生涯学習センター（有漢地域局）	高梁市有漢町有漢3387	○
成羽	成羽地域局	高梁市成羽町下原606	
	成羽小学校	高梁市成羽町下原1086	○
	成羽体育館	高梁市成羽町成羽2251-1	○
川上	川上総合学習センター（川上地域局）	高梁市川上町地頭1822	○
備中	備中総合センター（備中地域局）	高梁市備中町布賀29-2	○
	旧備中中学校	高梁市成羽町布寄109	○
津川	津川総合会館（津川地域市民センター）	高梁市津川町今津1801-1	○
川面	川面地域市民センター	高梁市川面町2212-1	
	高梁北中学校	高梁市川面町2302-1	○
巨瀬	巨瀬地域市民センター	高梁市巨瀬町4864-1	
	巨瀬小学校	高梁市巨瀬町4966-2	○
中井	中井地域市民センター	高梁市中井町西方3158	
	中井小学校	高梁市中井町西方300	○
玉川	玉川地域市民センター	高梁市玉川町玉1150	
	玉川小学校	高梁市玉川町玉1538-1	○
宇治	宇治総合会館（宇治地域市民センター）	高梁市宇治町宇治1690	○
松原	松原町コミュニティハウス（松原地域市民センター）	高梁市松原町春木669-1	○
高倉	高倉地域市民センター	高梁市高倉町田井4532-2	○
落合	落合研修会館（落合地域市民センター）	高梁市落合町阿部2303-2	○
	落合小学校	高梁市落合町阿部1686	○

(3) 集中備蓄倉庫と分散備蓄倉庫における備蓄目標

分散備蓄倉庫	算出根拠	割合
高梁市街地	8,027人（市街地人口）/28,022人（全域）	29%
各地域局、落合地域 市民センター（5箇所）	地域局管内で一番人口の多い成羽地域を基準 4,061人（成羽地域管内）/28,022人（全域）	15%
落合を除く市民センター（8箇所）	落合を除く市民センター単位で一番人口の多い川面地域を基準に算出 1,023人（川面地域管内）/28,022人（全域）	4%

● 配備基準

① 食料及び水

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
アルファ化米、クラッカー	分散備蓄倉庫は集中備蓄倉庫から補充することを想定し1日分備蓄備蓄目標（県基準にかかわらず市での必要想定数）を基準	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数	8,750食
	12,981食/3日×29% ≒ 1,254食 <	1,300食
	12,981食/3日×15% ≒ 650食 <	700食
	12,981食/3日×4% ≒ 174食 <	200食
アルファ化米（おかゆ）	分散備蓄倉庫は集中備蓄倉庫から補充することを想定し1日分備蓄備蓄目標（県基準にかかわらず市での必要数）を基準	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数	2,950食
	2,700食/3日×29% = 261食 <	300食
	2,700食/3日×15% = 135食 <	200食
	2,700食/3日×4% = 36食 <	100食

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
ベビーフード	ベビーフードは賞味期限が短く、全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	7ヶ月から <input type="text" value="20食"/>	集中備蓄倉庫
	9ヶ月から <input type="text" value="20食"/>	
	12ヶ月から <input type="text" value="30食"/>	
1歳4ヶ月から1歳8ヶ月 <input type="text" value="30食"/>		
液体ミルク 粉ミルク	液体ミルクは賞味期限が短く、全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	①液体ミルク <input type="text" value="170本"/> ②粉ミルク（アレルギー対応） <input type="text" value="800g（1缶）"/>	集中備蓄倉庫
水	分散備蓄倉庫は集中備蓄倉庫から補充することを想定し半日分備蓄 残りの1人1日当たり1.5ℓについては、市の給水車や協定自治体等からの支援給水車による給水を行うことを考えます。	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数 <input type="text" value="9,072本"/>	集中備蓄倉庫
	$6,000本/3日 \times 29\% = 580本 < $ <input type="text" value="600本"/>	高梁市街地
	$6,000本/3日 \times 15\% = 300本 < $ <input type="text" value="312本"/>	各地域局、落合地域 市民センター
	$6,000本/3日 \times 4\% = 80本 < $ <input type="text" value="96本"/>	市民センター（落合を除く。）

② 生活必需品

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
紙コップ (哺乳瓶代用品)	全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	<input type="text" value="120個"/>	集中備蓄倉庫
紙おむつ（子供用）	全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	Sサイズ <input type="text" value="60枚"/>	集中備蓄倉庫
	Mサイズ <input type="text" value="180枚"/>	
	Lサイズ <input type="text" value="220枚"/>	
ビッグサイズ <input type="text" value="20枚"/>		
おしりふき (子供用)	全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	<input type="text" value="20袋"/>	集中備蓄倉庫

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
紙おむつ（大人用）	全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	692枚	集中備蓄倉庫
生理用品	全体数が少ないため全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	648枚	集中備蓄倉庫
毛布 アルミシート	各地域により按分します。	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数 毛布 635枚 アルミシート 45枚	集中備蓄倉庫
	毛布 390枚 アルミシート 30枚	高梁市街地
	毛布 190枚 アルミシート 20枚	各地域局、落合地域 市民センター
	毛布 40枚 アルミシート 10枚	市民センター（落合を除く。）
タオルケット	各地域により按分します。	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数 750枚	集中備蓄倉庫
	400枚	高梁市街地
	200枚	各地域局、落合地域 市民センター
	50枚	市民センター（落合を除く。）
トイレトーパー	県備蓄計画の340巻を備蓄目標とし、残り290巻は市役所、地域局、市民センター等の市有施設保有分を使用します。	
	340巻	集中備蓄倉庫

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
ウェットティッシュ	1人当たり1袋として備蓄	
	150袋	集中備蓄倉庫
	300袋	高梁市街地
	150袋	各地域局、落合地域 市民センター
	50袋	市民センター（落合を除く。）
マスク	全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	14,300枚	集中備蓄倉庫
消毒用アルコール	全て集中備蓄倉庫にて備蓄	
	115ℓ	集中備蓄倉庫

③ 資機材等

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
簡易トイレ	各地域により按分します。	
	各分散備蓄倉庫へ配備した残数 7基	集中備蓄倉庫
	8基	高梁市街地
	4基	各地域局、落合地域 市民センター
	2基	市民センター（落合を除く。）
簡易トイレ用排便 収納袋	簡易トイレ1基につき250袋	
	各分散倉庫へ配備した残数 26,800袋	集中備蓄倉庫
	2,000袋	高梁市街地
	1,000袋	各地域局、落合地域 市民センター
	500袋	市民センター（落合を除く。）

品目	算出根拠	
	備蓄目標	対象
懐中電灯	各避難場所 ⁵ 2個として備蓄	
	4個	集中備蓄倉庫
	2個	各避難場所
カセットコンロ	各避難場所 ⁵ 2台として備蓄	
	4台	集中備蓄倉庫
	2台	各避難場所
カセットガス	カセットコンロ1台当たり3本を備蓄	
	12本	集中備蓄倉庫
	6本	各避難場所
簡易ベッド	各避難場所 ⁵ 20台として備蓄	
	640台	集中備蓄倉庫
	20台	各避難場所
簡易問仕切り	各避難場所 ⁵ 20個として備蓄	
	390個	集中備蓄倉庫
	20個	各避難場所
ブルーシート	各避難場所 ⁵ 5枚として備蓄	
	10枚	集中備蓄倉庫
	5枚	各避難場所
投光器	各避難場所 ⁵ 1台として備蓄	
	2台	集中備蓄倉庫
	1台	各避難場所
発電機	各避難場所 ⁵ 1台として備蓄	
	2台	集中備蓄倉庫
	1台	各避難場所
発電機用カセットガス	発電機、1台当たり12本を備蓄	
	24本	集中備蓄倉庫
	12本	各避難場所

⁵ 最初の避難所開設候補となる施設

品 目	算出根拠	
	備蓄目標	対 象
蓄電池	各避難場所 ⁵ 1個として備蓄	
	2個	集中備蓄倉庫
	1個	各避難場所

⁵ 最初の避難所開設候補となる施設

● 配備基準一覧表

分類	配備基準		配備基準		
			合計	内訳	
				集中備蓄倉庫	分散備蓄倉庫
食料及び水	アルファ化米、クラッカー		15,100食	8,750食	6,400食
	アルファ化米（おかゆ）		5,050食	2,950食	2,100食
	ベビーフード	7ヶ月から	20食	20食	0食
		9ヶ月から	20食	20食	0食
		12ヶ月から	30食	30食	0食
		1歳4ヶ月から1歳8ヶ月	30食	30食	0食
	液体ミルク		170缶	170缶	0缶
	粉ミルク（アレルギー対応）		1缶	1缶	0缶
水（500ml入りペットボトル）		12,000本	9,072本	2,928本	
生活必需品	紙コップ		120個	120個	0個
	紙おむつ （子供用）	Sサイズ	60枚	60枚	0枚
		Mサイズ	180枚	180枚	0枚
		Lサイズ	220枚	220枚	0枚
		ビッグサイズ	20枚	20枚	0枚
	おしりふき（子供用）		20袋	20袋	0袋
	紙おむつ（大人用）		692枚	692枚	0枚
	生理用品		648枚	648枚	0枚
	毛布		2,295枚	635枚	1,660枚
	アルミシート		255枚	45枚	210枚
	タオルケット		2,550枚	2,250枚	0枚
	トイレトペーパー		340巻	340巻	0巻
	ウェットティッシュ		1,600袋	150袋	1,450袋
マスク		14,300枚	14,300枚	0枚	
消毒用アルコール		115ℓ	115ℓ	0ℓ	
資機材	簡易トイレ		51基	7基	44基
	簡易トイレ用排便収納袋		37,800枚	26,800枚	11,000枚
	懐中電灯		40本	4本	36本
	カセットコンロ		40台	4台	36台
	カセットガス		120本	12本	108本
	簡易ベッド		1,000台	640台	360台
	簡易間仕切り		750台	390台	360台
	ブルーシート		100枚	10枚	90枚
	投光器		20台	2台	18台
	発電機		20台	2台	18台
	発電機用カセットガス		240本	24本	216本
	蓄電池		20個	2個	18個

5 家庭内備蓄について

家庭内備蓄の意義や必要性について、ホームページや広報紙、自主防災組織等を通じて、市民に対して継続的に広報を行っていくこととします。

家庭内備蓄の広報に際しては、3日分以上（推奨1週間分）の食料や1人1日3ℓ以上の水の備蓄を呼びかけていくとともに、災害発生時にすぐに取り出せる場所に保管するよう併せて呼びかけていきます。

また、自分しか使わないが、生活を送るために必須なものは、余裕をもって備え、非常時には持ち出せるよう呼びかけていきます。

（例）アレルギー対応飲食物品、アレルギー対応ミルク（乳幼児）、メガネ、持病薬、補聴器、サイズ指定があるもの、ペットフード、ペット用品など。

[家庭で用意することが望ましいもの]

○食料等（※3日分以上）

主食	アルファ化米・レトルト食品・米・冷凍麺・インスタント麺・スパゲッティ・ビスケット・クラッカー・アレルギー対応食 など
主菜・副菜	缶詰、レトルト食品、乾燥食品、梅干、漬物 など
汁物	スープ類
調味料	砂糖、塩、みそ、しょうゆ、コンソメ など
嗜好品	あめ、チョコレート、スナック菓子、缶詰、ふりかけ など
水	ミネラルウォーター、お茶、スポーツドリンク、野菜ジュース、スキムミルク など

○水（※1人当たり1日3ℓ以上）

○資機材等

携帯ラジオ、懐中電灯、乾電池、携帯電話用バッテリー、携帯電話用充電器、歯磨きセット、軍手、タオル、ウェットティッシュ、使い捨てカイロ、ばんそうこう、医薬品 など

○ペット用持出品

キャリーバックやゲージ、ペット用非常食（少なくとも5日分できれば7日以上）、水（少なくとも5日分できれば7日以上）、療法食や薬、食器、首輪やリード、ペットシート、排泄物の処理用具、トイレ用品、タオル、ブラシ、ウェットタオルや洗浄綿、ペット用除菌消臭スプレー、ビニール袋、お気に入りのおもちゃやおいがついた用品、洗濯ネット など

6 企業内備蓄について

大規模災害が発生した場合、消防・自衛隊等の行政機関は、道路の渋滞や多数の出動要請等により即座に企業からの救援要請に対応できるとは限りません。

阪神淡路大震災の際にも近所の人等に救助された人が全体の7割で、消防・自衛隊等に救助された人は3割に過ぎないという事例もあります。

このため、企業等は、ライフラインの復旧に目途が立つ3日分以上の備蓄品を確保し、必要であれば、安全が確認できるまでの間、会社施設内に社員を待機させることが可能となるようにする必要があります。

また、所有する施設の耐震性を強化するとともに収納棚等の転倒防止などにも取り組み、社員等の安全確保にも努める必要があります。

[企業等で用意することが望ましいもの]

○食料・水 3日分以上

○資機材等 毛布、簡易トイレ、医薬品、ラジオ、乾電池、懐中電灯、ヘルメット、軍手など

7 流通備蓄について

本市では、流通業界等の業者と協定を締結し、災害時に、必要な物資を調達することとしており、このような業者から調達する物資を「流通備蓄」といいます。

現在、食料や水、生活必需品、日用品雑貨、資機材等の流通備蓄に関して業者と協定を締結しています。

今後も協定の締結を推進し、流通備蓄がいざというときに有効に機能する体制としていきます。

● 応急生活物資等に関する協定一覧（令和4年3月末現在）

協定名	内容	協定先
災害時における応急生活物資供給等に関する協定	応急生活物資の調達と安定供給、組合員のボランティア活動推進等	生活協同組合おかやまコープ
高梁市と株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの地域活性化包括協定	災害時の物資供給	株式会社セブン-イレブン・ジャパン
高梁市と株式会社イズミとの地域活性化包括連携協定	災害支援物資の提供	株式会社イズミ

8 救援物資について

東日本大震災及び熊本地震では、一箇所に救援物資が大量に届けられ、仕分けの能力を超えたため、救援物資が山積みになってしまったというケースが見受けられました。

その要因の一つとして、個人からの救援物資に多種多様の物が詰められて送られてくるため、その開封・仕分け作業に時間がかかったことが考えられます。

そこで、本市では自治体や企業、団体からの救援物資を優先し、個人からの救援物資については、受け入れ態勢が整った後とします。また、その形態については、単品梱包とし、内容・数量をラベル表示してもらうこととします。

●物資等の相互応援に関する協定一覧（令和4年3月末現在）

協定名	内容	協定団体
～藩主交代の歴史を共有するまち～ 高梁市・亀山市災害時相互応援に関する協定書	災害時において、両市間において文化財保護、職員・民間ボランティアの派遣、被災者受け入れ、必要物資及び資機材の提供等を行うもの	三重県亀山市
筑西市・高梁市 災害時相互応援に関する協定書	災害時において、職員及び民間ボランティアの派遣、被災者の受入、食料等必需品・復旧に必要な資機材の供給及び提供を行うもの	茨城県筑西市
～「石の風ぐるま」をゆかりとするまち～ 四万十町、山鹿市及び高梁市災害時相互応援に関する協定書	災害時において、各自治体間での食料等必需品の提供、応急復旧資機材等の提供、職員派遣を行うもの	高知県四万十町 熊本県山鹿市
高梁市及び三好市の危機事象発生時における相互応援協力に関する協定	両市間において、職員の派遣、必要物資及び資機材の提供、市役所業務継続に必要な支援等を行うもの	徳島県三好市

協定名	内容	協定団体
岡山県及び県内各市町村の災害時相互応援協定	県内27市町村間で下記物資等の提供及び児童生徒等の一時受入を行うもの 人員、食料、水等の生活必需品、避難施設、医療・防疫に必要な資材、救助等に必要な車両・資機材等、ごみ・し尿処理装備・施設、火葬施設	岡山県、岡山市、倉敷市、津山市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、新見市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、美作市、浅口市、和気町、早島町、里庄町、矢掛町、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、吉備中央町
高梁市と日本郵便株式会社高梁市内郵便局との包括的連携に関する協定書	防災訓練への参加 防災士としての協力活動 災害時の備蓄品の提供支援 支援物資の一時保管場所の提供 災害時の情報提供	日本郵便株式会社高梁市内郵便局